



尚操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校
尚操会
〒682-0925
鳥取県倉吉市秋喜20
倉吉西高等学校内
0858(28)-1811
山本印刷(株)
0858(47)-0088

会長挨拶



尚操会会長
藤井 幸博
(西高第24回卒業生)

母校が110周年を迎えました

定作業、②中庭改修工事、③「栄光の軌跡」(成績上位者の名前を刻む)石碑の設置、④創立110周年記念式典の開催、の4つがあります。

①玄関前庭の剪定作業ですが、玄関前の木々が生い茂って暗くなっておりまして、入学式に間に合うよう4月上旬に剪定作業を実施しました。②中庭改修工事は、中庭を多くの生徒が集う憩いの場とすべく、樹木を撤去し人工芝を設置するというものですが、西高祭に間に合うように5月下旬に行いました。③「栄光の軌跡」石碑設置は、玄関にあります石碑の横に、新たなお名前を含む20年分を刻んだ石碑を製作し、記念式典に間に合うよう設置する計画で、目下準備を進めているところです。

このように、創立110周年記念事業の実施に伴い、母校の風景が一部変わっておりますので、会員の皆様には、ぜひ母校をお訪ねいただいて、新しい西高の姿をご覧いただきますようお願いいたします。

尚操会会員の皆様におかれましては、お元気で活躍のことと存じます。日頃より本会活動につきまして温かいご支援、ご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

母校は本年6月16日に創立110周年を迎えました。尚操会を代表して、母校の創立110周年を心よりお祝い申し上げます。そして、会員の皆様と節目の年を喜び合えることを、とても光栄に思います。

母校は大正3(1914)年6月16日に倉吉町立倉吉実科高等学校として設立されました。その後、校名の変更、公立学校再編成を経て、昭和28年4月余戸谷町(明倫小学校)に男女共学の鳥取県立倉吉西高等学校として生まれ変わりましたが、西高3回生として卒業した32名の男子生徒を最後に、昭和31年からは男子生徒が1名もいない女生徒だけの共学校になりました。しかし、昭和44年に26名の男子生徒が入学し、ようやく名実ともに男女共学校となりました。昭和49年12月には、住みなれた余戸谷町の校舎を後に、ここ秋喜の地に移転し、「立志」の心を育む学び舎は昭和、平成、令和と学灯を引き継いで現在に至っています。

今年度、尚操会では田中学校長先生をはじめ母校の皆様とともに、創立110周年記念事業に取り組んでおります。事業内容といたしましては、①玄関前庭の剪

④創立110周年記念式典は、記念祝賀会とともに11月8日に開催いたします。本事業の実施に向けて、会員の皆様、地域の皆様、母校の皆様には多大なご支援を賜りまして、心からお礼を申し上げます。皆様のご期待に応えるべく、素晴らしい記念式典となりますよう、現在、全力で準備に取り組んでおります。

母校が設立された1914年は、パリで開かれたオリンピック委員会で、5色(青、黄、黒、緑、赤)のオリンピック旗(五輪旗)が制定された年だそうです。奇しくも今年にはオリンピック開催の年。五輪は5つの大陸の結合と連帯を表しているそうなので、この夏はパリのオリンピック中継を観ながら、地球の平和を願い、母校の110周年を支えてくださった方々への感謝の思いを新たにしたいと思います。

花・水・木



教頭
竹中 孝浩

今年4月より倉吉西高等学校教頭を拝命した竹中孝浩と申します。高校教員になった平成7年から平成19年までの12年間本校で教諭として勤務させていただきました。多くの思い出が詰まっている校舎で、懐かしさを感じながら日々の業務に取り組んでいます。教員を始めたあの頃の初心に戻って、生徒の可能性を引き延ばし、充実した学校生活を送れるよう、しっかりサポートしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

17年ぶりに本校に勤務して感じたことは、生徒と教員の関係の深さです。以前は1学年6クラスでしたが、現在は3クラスと半分になりました。しかし、生徒数が少ない分、生徒と教員の距離は縮まっていますように感じます。教科指導はもちろん、探究活動発表会の前には生徒の相談に遅くまで対応し、西高祭では遅くまで生徒を支援している姿を見ると、本校の方針である「伴走教育」がしっかりと受け継がれていると感じます。今後も教職員が一つになって、生徒の成長を促していきたいと思っています。

令和7年1月4日に、24年前に私が担任をしていた学年の同窓会が開催されます。幹事長の竹部君は「担任の先生方を全員呼びたい」と張り切っており、1年前に早々と招待状が届きました。尚操会の皆様の母校を懐かしむお気持ち、学校の大きな支えになっております。今後ともお力添えを賜りますようよろしくお願いたします。

お知らせ

学校ホームページで、本校の折々の情報を発信しています。同窓会の情報も発信していきますので是非アクセスしてください。



創立110周年



校長 田中 博幸

今年度、本校は創立110周年となります。大正3年4月の公立学校再編成により男女共学の鳥取県立倉吉西高等学校が誕生しました。そして、平成11(1999)年4月から単位制普通科高校として歩み始め、この時から学年次をステージ、多目的教室をリベラ・タベルナと呼

ぶようになりました。

本校の校訓「立志」の歴史は、昭和54(1979)年度の卒業記念碑として「立志」の石碑が建てられてはいますが、いつから「立志」を校訓としているのかは不明です。ご存じの方がいらっしゃいましたら、是非、学校まで御連絡をお願いします。

さて、現在の本校は、校訓である「立志」の精神に基づき、「自らの志を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。」ことを学校目標とし、男子150名、女

子158名が生き生きと学習をしています。部活動においても9

割近くの生徒が参加し、弓道部、自転車競技部、新聞部など全国大会レベルで活躍しています。また、今年度から文部科学省事業の高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)に採択され、理系進学者の増加及びデジタル教育の推進を目的として、その準備と取組みを開始したところです。

本校がこれまで発展してこられたことは、尚操会の皆様のおかげであると感謝いたします。本

年11月8日の記念式典や記念事業を尚操会の御協力を得ながら準備しているところです。式典には御臨席いただくとともに、今後より一層の御支援・御協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

の母校といっても過言ではない大切なふるさととなっています。私の好きな言葉に「信は力なり」という言葉があります。人の生き方にとって大切な「信用」「信頼」「信念」。その「信」という字は「人」の「言葉」と書きます。誰に、どんな場面で、どのような「言葉」をかけるべきか、西高はそんな温かい「言葉」があふれる、生きる力を生み出す学園でありました。最後になりますが、今後も西高の発展を支えていただく尚操会の皆様の益々のご活躍を祈念し、私からの感謝の「贈る言葉」とさせていただきます。ありがとうございます。

倉吉西高校創立110周年に向けて



県教育委員会教育長 足羽 英樹

尚操会の皆様、平成27年度に西高校長をさせて頂いた足羽です。

この度、創立110周年の節目を迎えられること、心からお慶び申し上げますとともに、尚操会報への寄稿の機会をいただきましたことに感謝申し上げます。

平成26年度の110周年の際には、私は教頭として尚操会の皆様と心ひとつに、「手作り・真心」

私自身が校長としてお世話になったのはわずか1年間でしたが、その年は、全県的な生徒数減少の流れを受け、西高が1学年4

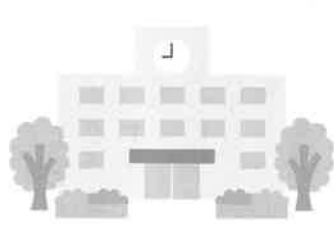
学級から3学級へと定員減となったスタートの1年でした。生徒数は減少しましたが、「チーム西高」の合言葉のもと、生徒や保護者、教職員、さらには尚操会の皆様と心ひとつに、それまで以上に活気溢れる温かい西高の創造を目指した1年であったと思っています。全県先駆けとなった「アクティブ・ラーニング」導入による協働的な学びを目指した授業改革や教職員の働き方改革の推進とともに、生徒たちの部活動での大活躍も思い出されます。和歌山国体での弓道

女子近的優勝、弓道男子近的準優勝、さらには自転車少年男子1km

での山根君の準優勝など、「西高ここにあり」を印象付ける感動の瞬間でした。そんな華々しい活躍の一方で、球技大会の朝、雨上がりのテニスコートで皆のために黙々と水抜きをしてくれた生徒、応援に盛り上がる体育館の入り口で脱ぎ散らかったスリッパを丁寧にそろえてくれていた生徒の姿も忘れることができません。そんな心温かい生徒とともに過ごすことのできた校長生活、離任式後に泣き崩れながら校長室を訪ねてくれた生徒、最後の日の生徒会による感動的な校長送別会で送り出してくれた西高は、私にとっても第二

の母校といっても過言ではない大切なふるさととなっています。

私の好きな言葉に「信は力なり」という言葉があります。人の生き方にとって大切な「信用」「信頼」「信念」。その「信」という字は「人」の「言葉」と書きます。誰に、どんな場面で、どのような「言葉」をかけるべきか、西高はそんな温かい「言葉」があふれる、生きる力を生み出す学園でありました。最後になりますが、今後も西高の発展を支えていただく尚操会の皆様の益々のご活躍を祈念し、私からの感謝の「贈る言葉」とさせていただきます。ありがとうございます。



110周年記念事業

令和6年に創立110周年を迎える本校は、今年数多くの記念事業を行います。まず、校門入って右手に広がる「ウィーンの森」は、中央に本校の校訓「立志」の碑があり、生徒や来客を出迎えますが、この植え込みの剪定によってすっかり明るい雰囲気になりました。中庭の植え込みは撤去され、人工芝が敷設されました。天気の良い日には、ここでお弁当を食べる生徒の姿も見られます。

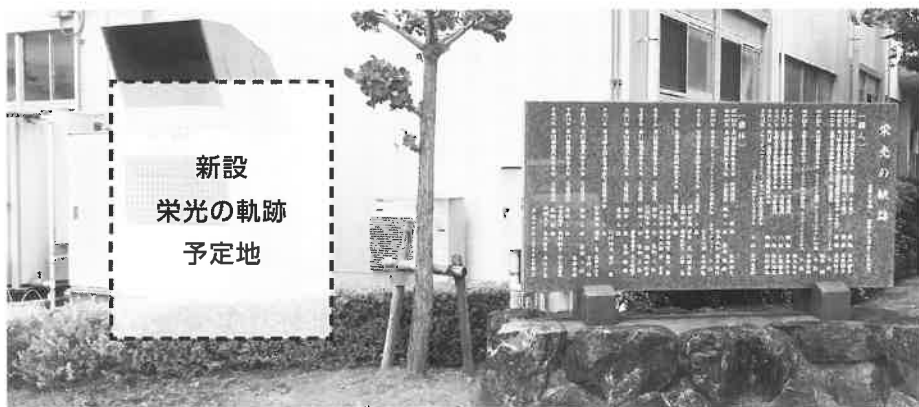
正面玄関左手には、全国大会上位入賞者、世界大会出場者を讃える碑「栄光の軌跡」があり、その左隣に、新たに令和5年度までの入賞者の名を刻む「栄光の軌跡」が新たに設置されます。また、11月8日（金）本校にて、創立110周年記念式典が開催されます。ご支援ありがとうございます。



中庭



ウィーンの森



「栄光の軌跡」 左側に新しく設置予定

新設
栄光の軌跡
予定地

教育実習生として

～高校時代から今、そして将来に向かって～

西高第67回卒業生(令和2年) 好川 悠太



私は現在、兵庫県立大学理学部物質科学科で物理・化学の勉強と、高校理科の教員になるための勉強をしています。なぜ私が教員を目指すようになったかというと、高校時代に西高の先生方が支えてくださったおかげで安心して三年間を送ることができたからです。多感な時期で勉強のことや人間関係などの悩みは尽きませんでしたが、先生はいつも私の話を親身になって聴き、優しい言葉で励ましてくださりました。そのような姿を見て、自分も生徒に寄り添い高校生活を支える教員になりたいと考えるようになりました。

ここで少し高校時代の思い出話をさせてください。私は当時生徒会長を務めており、勉強の傍らに生徒会活動で忙しくしていました。球技大会の運営や対面式、壮行会の司会進行など次から次へとやらなければならぬ仕事がいっぱいあって、かなり余裕をなくしていました。そんなとき、先生に「生徒会長の君が何も指示を出さず真っ先に動いていたら、まわりの人はどうしたらよいかわからなくなってしまふよ。」と言われました。たしかに私は忙しさから余裕をなくしており、自分さえ動けばそれでいい、といったような気持ちが少なからずありました。しかし、先生のアドバイスを聞いてから、生徒会長がそんなふうではいけないと思いなおし、忙しい時こそ周囲をよく見渡すことを意識するようになりました。そうすることで少しだけ心に余裕が生まれ、自分のことだけでなくほかの

最後に、今年の五月に教育実習生として西高を訪れた時のことをお話しします。現場の実習はこれが初めてだったので、はじめはとにかく不安で押しつぶされそうでした。しかし、毎朝飛び交う元気な挨拶や生徒たちの活気に溢れた表情を見て、私もエネルギーをもらうことができました。実習中、少しでも多くのことを学び取ろうと理科以外の授業見学にも行くようにしていました。そこで、生徒の学力を伸ばすために先生は本当にたくさんの努力をしておられるのだと改めて感じました。板書の色使いや言葉選びなど、とても細かい部分まで授業を研究しておられて、自分はまだまだ「教える」ということに対しての認識が甘かったのだなと思いました。この実習を通して見えてきた具体的な反省点、先生方からいただいたアドバイスを参考にして今後も大学で勉強を続けます。そして、将来は学習面と生活面両方で生徒を支え、より良い指導のために努力をし続けられる教員になりたいと思います。

西高で学んだこと

西高22回卒業生(昭和50年) 市川 祐子(旧姓岩本)

私は昭和47年に余戸谷町にあった西高に入学。当時の学校は正面玄関入って左に通学自転車置き場。校舎の左奥にプールがあり、その奥に部屋。玄関の右側に売店、体育館は右側の一番奥にあった。校門手前には「おおば商店」があり、部活の帰りに寄り道した。

同級生の男子は30数名(?)ぐらいだった。生徒のほとんどが進学希望だったので、2年生になると進路により就職組がひとクラスで残り6クラスは文系と理系に分かれた。私は就職組で女子32名

狭い校庭は放課後になると、サッカー、野球、ソフトボール、ハンドボールが部活動している隙間を陸上部が走っていた。私は入学後すぐに陸上部員からの勧誘があり、ふらっとはいってしまったものの陸上部内での走る速さは後ろの方だった。2年の春、西高に高塚先生が講師として来られ陸上部を指導。私が走り高跳びがしたいと言ったその日から背面跳びを教えてもらい2ヶ月後にはインターハイに出場が決まり、3年生

事務室の方のやさしさに触れて

西高23回卒業生(昭和51年) 木村 逸朗

私が西高を卒業して、50年近く経過し女学校から現西高まで、母や妻そして子どもたち3人も西高でお世話になりました。

学生の時は、運動が苦手で、クラブ活動も文化部だったため、就職し社会人になった途端、反動が出たらしく、20台前半より市民マラソンに傾注し、時を同じくして近所のバドミントンサークルに未経験ながら参加しておりました。

ハードなスポーツですが、それ以来休むことなく練習に励み、

今では西高の体育館において毎週金曜日、汗を流すことが唯一最後の楽しみになっています。

そして早朝に週一回、事務室に日誌を預かりに行きますが、時間外にも関わらず迅速に笑顔で快く対応していただき、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。

いつまでも西高にお世話になりっぱなしです。自転車や弓道などのスポーツのみならず、学生たちの活躍を見るたびに、西高をあらためて誇りに感じている今日この頃です。

では国体出場もした。

私の両親は小学3年の時に離婚。私は3人姉妹のまん中で母子家庭となりその為に姉も妹も中卒だ。周りの大人からは「親が離婚して生活保護を受けている子」と言われ、小学校高学年の2年間は担任から保護を受けている嫌がらせが続いた。その苦痛は誰にも言えず、中学生になっても心の中で引きずったままだった。

高校2年の時だった。出場していた大会で走り高跳びのバーに向かって立っていた時に不意に気がついた。私の来ているユニフォームにはゼッケン番号だけ書かれている。大会出場名簿には名前、学年、学校名、ゼッケン番号だけしか書かれていない。親が離婚など

とはどこにも書かれていないのだ。「そうか。私は私なのだ。親の離婚など関係なく他の人と同じに評価してもらえ。」当たり前前のことなのにその当たり前が長い間なかった。この時の気づきは今も鮮明だ。

私は長い間背負っていた理不尽な思いや大人のズルさをこの時走り高跳びのフィールドの上にそっと降ろそうと決めた。長くて暗い7年だった。努力をすれば皆と同じに評価してもらえということ。私は私にとっては、だから努力を惜しまずに生きろということ。努力はお金がかからないし誰でも出来ること。勿論努力してもできないこともあると全国大会で学んだ。私には高校だけで大学という未来

はないから精一杯頑張った。2年間クラス担任だった田中先生も支えてくれた。

あの当時は生徒会も活発だった。西高祭のスローガンが「裸裸・裸」に決まった時、教員側から「下品なので却下」と言われて揉めたが提案者が「はだか」と読むのではなく「ラ・ラ・ラ」と読みます。」と言い、漢字の横にルビをふることで認められた。あの頃の西高は男子が少なかつたので異性を気にすることのない解放感と自由さがあつたように思う。その中で先生や友人に恵まれ自分の生き方を学んだ。倉吉西高出身を私は誇りに思う。感謝。

西高祭今昔物語

卒業生に「西高の思い出」を訊ねると、多くの方が「西高祭」と答えられます。時代とともに形を変えながら、西高祭は今も昔も青春の1ページとなっています。



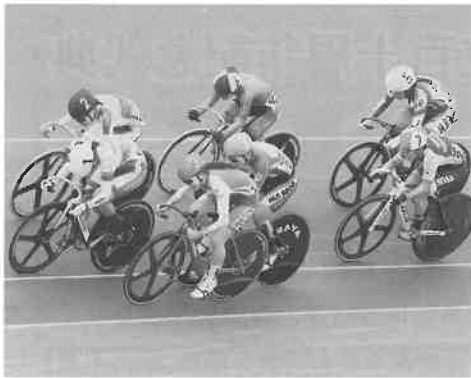
昭和58年 グラウンドファイヤー



平成元年 市内パレード(仮面ノリダー)



令和6年 中庭でのパレード



中学校までは水泳をしていたので、体力にはある程度自信がありました。が、最初の頃は競技場のバンクの傾斜と、ブレーキのない自転車に乗ることが恐怖でした。しかし、村出先生の熱心な指導で力をつけることができ、走ることに楽しくなってきました。今年のインターハイでは優勝を目指します。そして大学でも競技を続け、将来は世界に通用する選手になりたいです。



北中 成実
(3年)

自転車競技部

全国で活躍する西高生
校塔の懸垂幕の選手にインタビュー

令和5年度の全国上位入賞者

全国選抜大会
女子2km個人追抜・優勝 北中成実
女子スプリント・準優勝 北中成実
国民体育大会
男子ロードレース・優勝 吉田奏太
全国都道府県対抗
女子スプリント・準優勝 北中成実
女子500mTT・3位 相見涼花

全国高校総体

女子500mTT・準優勝 相見涼花
女子2km個人追抜・6位 北中成実、8位 田中 輝
女子ロードレース・6位 北中成実
JOC U17
女子スプリント・3位 森 董
全日本選手権
女子チームスプリント・3位 相見涼花 田中 輝
女子500mTT 3位 相見涼花
女子スプリント 4位 金馬榮煌



中学生の頃、西高のHPを見て弓道部の方々の姿に憧れて弓道部に入りました。「毎日単調な練習で飽きないか」と聞かれることがあります。が、一本一本工夫し、反省し、改善を心がけて弓を引いているので、飽きることはありません。福光善太監督の「自由に射て」の言葉の意味を日々考えながら、先輩方が築いてこられた伝統を守り発展させるため、今後も精進していきます。



生田 愛澄
(3年)

弓道部

倉吉西高校の入り口には、毎年全国大会で上位に入賞した部活・選手の名前が懸垂幕で掲示されています。現在は、令和5年度の全国高校総体(インターハイ)、全国高校選抜大会等で活躍した「自転車競技部」「弓道部」に加え、ドッジボールの国際大会に出場し、活躍した選手の名前が刻まれています。今回は、横断幕の選手の素顔に迫りました。

令和5年度の全国上位入賞者

全国高校総体 女子団体・優勝 (有澤侑菜、酒井心優、西村有花、森脇 心、生田愛澄、筏津 凜)
男子団体・5位 (岩瀬史也、森田侑吾、石川快理、浜田 勝、山室翔音、美船豪輝)
全国高校選抜大会 女子団体・準優勝 (酒井心優、筏津 凜、生田愛澄、野上愛華)
女子個人・第4位 酒井心優



小学校1年生の時に、姉の影響で小学校のドッジボールチームに入り、現在は三朝町を拠点とする「Soul Fighters」で活動しています。日本代表に選ばれてから、海外で試合をする機会が増え、エジプトでは厳重な警備の中で戦争をリアルに感じ、サウジでは中東の食事に苦労するなどほろ苦くも貴重な経験ができました。ドッジボールは日本ではまだまだマイナーですが、ワールドカップで優勝してメジャースポーツにしたいです。



福田 桜穂
(3年)

ドッジボール



ドッジボールワールドカップ カイロ2022 準優勝
アジアドッジボールチャンピオンシップ リヤド2024 優勝

創立百十周年記念式典

令和6年11月8日(金) 於:本校

今年(令和6年)、本校は創立110周年を迎えます。11月8日(金)に、本校で開催される創立110周年記念式典には、昨年、尚操会総会でもご講演いただいた菅埜達人さん(倉吉西高25回卒業)によるご講演と記念演奏が予定されています。菅埜さんは1年生の時に、本校の音楽部を創部され、3年間部長を務められました。鳥取県警での30年のご勤務中に警察音楽隊に所属され、その楽長も務められました。今回、現役倉西生徒の音楽部との共演は、まさに創立110周年にふさわしいものになると思います。

事務局より

昨年、尚操会総会を3年ぶりに開催することが出来ました。菅埜達人さん(倉吉西高25回卒業)のご講演を賜り、たいへん感激いたしました。

今年度は8月30日(金)に総会のみ本校にて行います。毎年、この欄に書かせていただいている幹事学年(西高卒業後10年、30年にあたる尚操会員)に総会を盛り立てていただくお願いを本年度は控えます。多くの尚操会員の方に、8月の総会と、11月の創立百十周年記念式典に集っていただき、盛り上げていただきますよう、よろしくお願ひします。

総会以外でも同窓会、クラス会を開催されるにあたり、参加人数が10人以上であれば補助金を支給しています。どうぞご活用ください。また、クラス会の様子を会報に掲載したく思いますので、写真や原稿を送っていただければ幸いです。詳しくは尚操会ホームページの「同窓会・クラス会について」をご覧ください。

尚操会 ホームページ紹介

【公式】尚操会 | 鳥取県立倉吉高等学校同窓会
<http://shosokai.info/index.html>
 「倉吉西高同窓会」で **検索**



講師紹介 菅埜 達人 (すがの・たつひと) さん

(1978年倉吉西高25回卒業)

■プロフィール

高校入学後、吹奏楽部(音楽部)を創部し3年間部長を務める。大学では管弦楽部に所属し、作曲家近衛秀健氏の指導を受ける。卒業後は鳥取県警察官となり、その後警察音楽隊に入隊。奏者を経て楽長に就任し約30年間勤務する。2020年3月退職



第5回尚操会グラウンドゴルフを楽しむ会

昨年11月に予定していましたが中止になってしまいました。今年も楽しい会にしたいと考えています。詳細は尚操会ホームページ等でご案内しますので是非ご参加ください。

尚操会名簿を **発売中**です

令和2年10月に、8年ぶりの『尚操会名簿』を発刊しました。会員の皆様には大変お世話になりました。購入を希望される方は尚操会事務局(倉吉西高)までご連絡ください。

- 1冊 3,600円 (振り込み手数料・送料が別途必要)

創立百周年記念誌 **発売中**です

創立百周年記念誌の購入を希望される方は、尚操会事務局(倉吉西高)までご連絡ください。

- 1冊 5,000円 (振り込み手数料・送料が別途必要)